



平成25年度 外国語活動・外国語研修会

平成25年7月26日（金）実施

対象：高知市立小学校第5・6学年学級担任及び中学校英語科教員

実践発表

コミュニケーション能力の育成をめざして

～小学校外国語活動と中学校外国語をつなぐ 平成24年度の実践発表～

実践発表者：佃教諭（はりまや橋小）、森教諭（城北中）、恒石教諭（城東中）



【取組内容】

- ・ 昨年度の本研修会をきっかけに、小・中学校でビデオレターを作成し、交流した。

【取組の成果】

- ・ 小学校では、中学校での英語学習へのあこがれや期待感が向上した。
- ・ 中学校では、学習意欲が向上し、自ら進んで表現を工夫する生徒が増えた。
- ・ 小・中学校ともに、子どもたちに意欲的に学習に取り組ませるためには、英語を使う必然性を、学習者が感じられる学習場面の設定が必要であることを教員が再認識することができた。

【中学校入学時の様子】

- ・ 英語の授業に意欲的に取り組んでいる。
- ・ クラスルームイングリッシュについては抵抗感がなかった。
- ・ 積極的な子どもは英語で自己紹介ができた。
- ・ はつらつとしている。

【これからの取組】

- ・ 小・中学校の学びのつながりを大切にする。
- ・ 活動で何を育むのかを小・中学校で考える。
- ・ 小中連携、小小連携を進める。
- ・ カリキュラムによる連携を組織として行う。

研修Ⅰ【講話・演習】

小学校外国語活動の円滑な実施に向けて ～小・中学校外国語教育の接続の視点から～

講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 直山 木綿子 教科調査官

中学校英語科授業について

～小学校外国語活動との共通点と相違点～

【共通点】

- ・ コミュニケーションを図る活動の設定
- ・ 外国語活動で使用した教材を活用
- ・ 外国語活動で行った活動を生かして実施

【相違点】

- ・ 中学校は英語で進める授業が基本
- ・ 音声から文字への丁寧な指導
- ・ 音声に慣れ親しんでから文構造の確認
- ・ 正確さ、適切さの指導
- ・ 聞く、話す、読むといった各活動の設定
- ・ 書くことに興味・関心を高める
- ・ 書いたことを生かす活動の設定

文科省配付の授業DVDについて

【平成22年度配付分】

- ・ 1時間ごとの授業の様子を編集
- ・ 外国語活動の授業のイメージ化を図る目的

【平成24年11月配付分】

- ・ 1単元の授業の流れに視点をあてて編集
- ・ 様々な指導体制（学級担任のみ、TT）での授業を編集

【平成25年7月頃配付分】

- ・ 1単元の授業の流れ（Disc 1）
- ・ 同一単元における単元後半のアレンジの仕方を編集（Disc 2）
- ・ 同一単元における単元終末のアレンジの仕方を編集（Disc 3）

【公立小・中学校における教育課程の編成・実施状況調査】

	H21年度実績	H22年度実績	H23年度計画
実施率	55.5%	63.3%	72.4%
情報交換	45.6%	53.7%	62.1%
交流	36.8%	43.3%	50.1%
カリキュラム作成	5.9%	8.6%	12.3%

小・中学校相互に授業や教材を見合う段階

お互いの取組を理解したうえで、協力して新しいものを創り出す段階

組織的、計画的に実施できている段階



昨年度の新堀小と城東中の取組は素晴らしいですね！昨年度のこの研修会で交流したことをきっかけに、実際に行動を起こした先生方に拍手を送りたい。2校の取組は、上表の「交流」の段階である。今日の実践発表のように、最初は、個人の先生方の情熱で動き始める。しかし、そこから、学校としてカリキュラムを作成し、組織として継続的に取り組むことが必要！！

研修Ⅱ【グループワーク及び講師のまとめ】

【意見交流】

ステップ 1

午前中の直山先生の講義を受けて、カードの貼り方だけで、子どもたちの思考の流れを作ることができるとわかった。



子どもたちの耳は確実によくなっているとALTの先生も言ってくれる。

「Hi, friends! 1, 2」の配列には、意味があることが分かった。

【単元計画・学習指導案の作成】

ステップ 2

「Hi, friends! 1, 2」の単元計画や学習指導案の資料を参考にして、各グループが選択した単元の中の1時間について、学習指導案を作成した。



どのグループも実際の生活場面に即し、英語を使う必然性を子どもたちが感じられるような学習場面を設定することを意識して、授業展開を考えていた。

【模擬授業の準備】

ステップ 3

模擬授業に向けて、教材作成に取り組んだ。短い時間の中、しかも十分な材料もそろっていなかったが、各グループともに創意工夫を凝らした教材ができていた。



中学校の先生がALT役になり、小学校の先生とTTで授業を行うという設定の授業展開を計画しているグループもあった。

【模擬授業の実施】

ステップ 4

2グループずつで、お互いの授業を見せ合った。授業者役以外の方が、児童役となり、授業に参加した。どのグループも和気あいあいとした雰囲気の中で楽しく模擬授業ができていた。



模擬授業後は、相互に感想や意見、質問を出し合い、授業のねらいや各活動の目的などについて更に交流を深めることができた。

【直山調査官によるまとめ】

ステップ 5

小学校と中学校の教員が集まって、単元計画や1時間の学習指導案を作成し、模擬授業を行うという実際の授業を体験する活動を通して、授業の質を高めるための研修ができたことは、高知市の成長であると感じます。



小・中学校ともに、子どもたちが言葉を選んで、自分の言葉で自分の思いや考えを伝えられるようになるといいですね。

感情の動きとともに学んだ言葉は、子どもに入りやすい。だからこそ、授業の中で、リアルな場面を設定することが大事!!

【受講者の感想】

- ・ ゴールを見通せるように、子どもたちに活動を提供することの大切さが分かった。
- ・ コミュニケーションを楽しめるような授業づくりを考えていきたい。
- ・ 同じ単元でも、いろいろなやり方があることが、グループワークを通してよく分かった。中学校の先生と協力してできたことがよかった。
- ・ 中学校の先生のアイデアや他校の実践を聞いて、授業づくりができたのは、すごく新鮮でよかった。グループに中学校の先生がおられたのは、とても心強かった。自分自身の英語力を高めないといけないということを改めて感じた。
- ・ 校区の小・中学校が連携を深め、相互に意識をもって、子どもたちの成長を共有したい。
- ・ 直山先生のお話から、授業のイメージがわいた。堂々と笑顔で二学期から英語の授業に挑みたい。